



BSIA

User Initiated Business & IT system Association



CONTENTS OF ACTIVITIES

ご挨拶

困難を思わせるスタートから

年次会報を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。

思い起こせば、ビジネスシステムイニシアティブ協会（BSIA）の活動の始まりは2011年2月でした。その1ヶ月後に東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所のメルトダウン事故が発生し、世界でも経験のないような災害に襲われました。その影響を受けて最初の事例研究会は4月からとなりました。最初から多難を感じさせるようなスタートでした。

この活動は日本での情報システム開発の現状に憂いを抱いていた発起人の一人、片貝孝夫氏の思いが強く反映されています。その片貝氏を2年前に失うという哀しみもありました。

任意団体活動から始まったBSIAも丸7年を迎えました。活動開始から2年後には非営利活動法人となり、さらに2年後にシステムをビジネスの視点から見る本質を見失わないように協会名を改称して現在に至っております。何事も成果をみるまでには相応の時間が必要ですが、まだ道半ばであると思っています。



設立代表者 木内 里美

BSIAの課題認識と活動

本活動の課題認識は協会名にある「イニシアティブ」にあります。主導権を表す言葉でありリーダーシップの意味もありますが、パイオニアや先手の意味もあります。企業の情報システムを構築する際に、ビジネスを知る構築側がイニシアティブを取るのは当然のことなのですが、その当然が出来ていないのが実態ではないでしょうか？

メインフレームが主流であった時代には、コンピュータメーカーに技術依存せざるを得ませんでしたが、それでも構築側はイニシアティブを失ってはいませんでした。メーカーの技術者とタッグを組んで良きパートナーシップで企業の情報システム課題に対応していました。オープン化が進む中でハードウェアもシステムの要求も

多様で複雑になり、徐々にベンダー依存が進んでいき本来構築側が取るべきイニシアティブを忘れてしまったのではないのでしょうか？ 挙げ句の果てに丸投げと言われる高依存度の結果、ビジネスのためのシステムが構築できず動かないコンピュータや係争問題が頻発するようになりました。

この問題はシステムの発注側だけでは留まらず、ビジネスが分からなくても不十分な要件でも受注してしまうベンダー側にも問題があります。かつてのような良きパートナーシップが構築できなくなっているのです。BSIAはこの両者の関係改善も含めて、ビジネス側がイニシアティブを取り戻し、ビジネスを支える情報システムを構築できるように啓発活動を続けます。

本年の振り返りとこれから

技術的な進化の激しい情報通信環境では、パイオニアとしてのイニシアティブも求められます。時代はハイモダリティ、デジタル経営、アジャイルがキーワードになっています。

2017年はビジネス視点での事例研究会を多く開催し、時代を反映したビジネストラנסフォーメーションやCIOばかりでなく経営トップの講演、アジャイル開発手法の本質などについて参加者の皆さんとディスカッションを行いました。そこには多くの知恵と示唆があり、システムの構築側にとっても受注側にとっても刺激の多い研究会が出来たと思っております。

協会の運営では理事の人数を増やし理事会を強化し活動を活性化しました。ボランティアベースの運営の難しさはありますが、

問題意識の高い理事や運営委員によって支えられ協会は少しずつ成長を続けています。

2017年は諸事情からシンポジウムの開催が出来ませんでしたが、2018年はBSIAらしさを出したチャレンジングなシンポジウムを企画しています。

日本でも経営ニーズからアジャイル開発手法を導入する事例が増えてきました。アジャイル開発はビジネス側が主体となって主導的であればなりません。内製力を高めて内製する企業も徐々にですが増えています。企業でシステムに関わる皆さんはリーダーシップを発揮し、現場を観察し、積極的に経営にかかるように活動してください。BSIAは皆さんをコミュニティで支援します。

BSIAの 活動概要

企業、団体、業種の枠を超え、先進事例の研究、問題解決手法に関する情報交流や相互啓発の支援、主体性を発揮できる情報人材の育成に関する事業を行っています。各活動は運営委員によってレポートが作成され、Webで発信されます。

ビジネスシステムイニシアティブ実践事例の共有と議論の場

例会

事例講演とディスカッションを行います。単なる講演会ではなくファシリテータがリードする参加者同士の議論で理解を深めビジネスシステムイニシアティブ実現のポイントを見出していきます。

毎月開催、1回ごとに異なるテーマ

どの月からでも参加できます。

本音の意見交換

ユーザー、ベンダーを問わない議論がおこなわれ、「ここだけ」の話が飛び出します。

異業種交流

テーブルディスカッションで異業種交流が促進されます。



分科会

ビジネスシステムイニシアティブにまつわる特定のテーマについて少人数のグループで議論、研究を行います。

現在活動中

パートナーシップ分科会 → 2014年4月～(東京)

過去開催

企業の成長を支えるPMO研究会 …… 2013年10月～2016年9月(東京)

iUI/iUXデザイン手法の研究部会 …… 2012年 4月～2012年9月(東京)

IT部門の人材育成検討部会 …… 2011年 9月～2012年6月(大阪)



ビジネスシステムイニシアティブ 実践人材の交流促進

シンポジウム

より多くのユーザー企業の方に「ビジネスシステムイニシアティブ」の重要性を認知していただくために、先進事例講演や、実践企業の方との交流の場を提供しています。

シンポジウムでも参加者同士のテーブルディスカッションをプログラムに盛り込むなど、BSIAらしいシンポジウムとなっています。



例会講演リスト（2015年6月以降を掲載）

50	2015.6	ITによるビジネス貢献	引地 久之 氏（日本たばこ産業株式会社 IT部長）
51	2015.7	「特許庁業務・システム最適化計画」への取り組み	中村 敬子 氏（特許庁 総務部情報技術企画室長）
52	2015.10	ローマ帝国に学ぶITの役割	橘高 政秀 氏（住友ゴム工業株式会社 IT企画部長）
53	2015.11	IT部門を取り巻く環境変化とその備えー広がる役割、高まる期待への対応とは！ー	金 修 氏（一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 専務理事）
54	2015.12	「システムイニシアティブを取り戻せ」 ～システムイニシアティブを失ったIT部門がイニシアティブを取り戻す方法～	立花 秀樹 氏（リゾートトラスト株式会社 情報システム部 業務改善課長）
55	2016.1	模倣の経営学 ～偉大なる会社はマネから生まれる～	井上 達彦 氏（早稲田大学商学大学院教授・インキュベーション推進室長）
56	2016.2	BSIAパートナーシップ分科会からの報告	パートナーシップ分科会：佐々木典夫（座長・ITコンサルタント）
57	2016.3	ミサワホームのIT再構築「クラウドファースト」と「バイモダル」へのチャレンジ	宮本 真一氏（ミサワホーム株式会社 企画管理本部 情報システム部 部長）
58	2016.4	価値創造の仕組み ～人と人との繋がりが新しい価値を創造する～	竹林 一氏（オムロン株式会社 京阪奈イノベーションセンタ オープンイノベーション担当）
59	2016.5	LIXILのグローバルIT戦略	小和瀬 浩之氏（株式会社LIXIL 上席執行役員 CIO）
60	2016.6	Global One Takedaに向けたビジネスの変革を支える IS/ITの変革とデジタルへの取り組み	沼田 智氏（武田薬品工業株式会社 グローバルインフォメーションテクノロジーリージョンCIO 製薬）
61	2016.7	KUMONのグローバルシステム「KiDS」の高速開発と短期導入 ～国内の改革を海外にどう活かしたか～	鈴木 康宏 氏（株式会社公文教育研究会 グローバルICT戦略室 室長）
62	2016.8	FinTech 銀行が受けるインパクト	佐藤 宏昭 氏（株式会社八十二銀行 執行役員システム部長）
63	2016.9	札幌市基幹系情報システム再構築の経験から学ぶ「発注者主導の心得」	田中 寛純 氏（Josys-led 代表）
64	2016.12	東京ガスのITの現状と電力・ガス自由化に向けて	沢田 和昌 氏（東京ガス株式会社 IT 活用推進部長）
65	2017.1	迫り来るシンギュラリティと人類の未来	松田 卓也 氏（神戸大学 名誉教授）
66	2017.2	こうすれば良好なパートナーシップを構築できる！	BSIA パートナーシップ分科会
67	2017.3	データ経営によるビジネス変革への挑戦	土屋 哲雄 氏（株式会社ワークマン 常務取締役）
68	2017.4	ベンチャー企業と大企業の文化の間で揺れる私が行き着いた「バイモダル戦」	小野 和俊 氏（セゾン情報システムズ常務取締役）
69	2017.6	デジタルトランスフォーメーション時代のデータ活用の在り方について考える	高橋 範光 氏（株式会社チェンジ執行役員 Analytics & IoT担当）
70	2017.7	IoTビジネス時代におけるIT部門の役割	田井 昭 氏（コニカミノルタ株式会社 執行役 IT企画部長）
71	2017.8	次なる100年を拓く、ヤンマーグローバルIT戦略 A SUSTAINABLE FUTURE ～テクノロジーで、新しい豊かさへ～	矢島 孝應 氏（ヤンマー株式会社 ビジネスシステム部 執行役員 部長）
72	2017.9	日産自動車におけるIS/IT中期戦略の歩みと IS/ITトランスフォーメーションの取り組み	木附 敏 氏（日産自動車株式会社 グローバルIT本部 本部長）
73	2017.10	戦略策定と戦略実現の手ほどき	中田 康雄 氏（株式会社中田康雄事務所 代表取締役 元カルビー株式会社 代表取締役社長）



第74回例会 上田 靖之 様

元株式会社日立製作所（初代情報システム管理本部長）

講演タイトル：「経営におけるCIOの責務とビジネスアナリシス ～日立の初代CIOが語る経営とビジネスアナリシス」
経営環境が激変する中、CIOおよび情報システム部門の役割と責務、そして期待されている「ビジネスアナリシス（BA）」は
使い物になるのかの視点で語って頂いた。



第75回例会 安井 力 様

アジャイルコーチ、コンサルタント

講演タイトル：「アジャイルとスクラムとは ～価値、原則、プラクティス～」

ユーザ企業のシステム開発を内製化へとシフトするための考え方や認識の変化、そして本質を理解するための確信に触れる
話を伺った。更に、価値を生み出す方法や、契約、組織を上手に運営する方法についても講演頂いた。



第76回例会 駒澤 正樹 様

サッポログループマネジメント株式会社 グループIT統括部 シニア イノベーション エキスパート

講演タイトル：「サッポログループにおけるITインフラ統合」

直近の10年間に度重なるM&Aを繰り返した結果、非効率なインフラ設備の運用となったが、全体的なグランドデザインを
描きつつ標準化を実施してきた苦労話を講演頂いた。

例会 講演者、参加者からのコメント

2017年12月講演者 安井 力 氏（アジャイルコーチ、フリーランス）

昨年12月、アジャイルとスクラムをテーマに講演をしてきました。ユーザー企業、ないしそれに近い情報システムの方向けというイメージで、アジャイルなソフトウェア開発の基本的な考え方から実践に向けた話まで、駆け足で紹介しました。

今回はとりわけ「人」についてのお話になったと思います。アジャイルマニフェストの第一には「個人、対話」とあります。Joshua Kerievskyのモダンアジャイルでは「人びとを最高に輝かせる」のが大事な要素の一であるとしています。

講演後、参加者どうしのディスカッションがあります。結構しっかり時間が取ってあって、みなさん熱心に議論をされていました。

またそこから質問もいくつか挙げられます。やはり人に関して、みなさん興味がおありのようでした。

「誰もがアジャイルに向くわけでもないし、すべての仕事でアジャイルが最適というわけでもない。銀の弾丸ではない。しかし向く人はどんどんやるといい。アジャイルな手法や考え方を排除しては生き残れない」というような回答をしたように思います。

2017年の最終回ということで懇親会もあり、招いていただきました。ここでも多くの質問や意見をぶつけてもらって、私自身も学びの多い会となりました。突出した方が多くいらしたように思います。今後も、いち参加者としてお邪魔したいと考えています。

例会参加者 新家 敦 氏（個人正会員、京都市、精密機器メーカー 情報システム子会社勤務）

2011年2月に「システム・イニシアティブ 2011」というイベントに参加して8年。「ユーザー主体開発」「内製化」の趣旨に賛同したものである。その後月次開催の「例会」という形となり、毎回のよう京都から東京まで参加するようになった。

毎回、どういうツテで選ばれているかと思うほどの、この小規模（50名ほど）の集会で話してもらえる豪華講師陣には驚くばかりである。その専門領域も幅広いため、セレンディピティが頻繁に喚起される。たとえそれが塾の運営方法であろうと、ホテル・旅館の運営であろうと、モノづくりの現場に応用できるような考え方を呈示していただける。

例会では、前半が講師講演で、後半が少人数のグループ討議というスタイルとなっている。このようなスタイルの会合はあまりない。通常、講演に対する質問をフロアから個人ごとに意見を募るのが定番である。しかしこの例会では、グループ討議を挟む

というフェーズがあることで、よりテーマに対する受け取り方が深まっていることが実感できる。これは参加者の属性が均一でなく、多様な専門業務を持つ人が集まっているため、モノの見方が広がるためだと思う。どんなに優秀な講師の講演であっても、このグループ討議がなければ成し得ない「身に付き方」であろう。



真剣にメモを取る2017年11月例会参加中の筆者

パートナーシップ分科会報告 西住 浩樹 氏（王子物流）

BSIA例会は講師の成功事例から自分自身への課題適用を考えるスタイルですが、分科会ではテーマに対して参加者の討議を中心に話をまとめます。

今回のパートナーシップ分科会では“必ずしも関係が良好でない”とされるユーザとベンダーの関係をどのような方法で改善するかについての成果を模索しており、2017年度ではスキル、ゴール、コミュニケーションの3つの視点から提案を行いました。それなりのものにはなりましたが、まだまだ未熟だと思われます。十牛図で言えば見跡が見牛あたりではないでしょうか。2018年度はさらに深掘りしたいと思います。

分科会はユーザ企業の方にこそ参加するメリットが大きい場だと思います。ベンダー・コンサルタントの方は業務として様々な業態に接することもあると思いますが、通常ユーザ企業ではそのようなことはありません。さらに相対している別組織に対しても所属する組織の力関係である程度取引の流れが決まるところがあります。そのためどうしても思考が単一方向に固まりがちです。

同じテーマを追求していても、発想の違う参加者から想定外の提案はもちろんのこと、場合によってはテーマ以外の発言で思わぬ拾い物をすることもあります。分科会の活動は視野拡大、リテラシー向上という副次的効果も大いに期待出来ますので、是非2018年度分科会への参加をお勧めします。



データ総研
堀越 氏

王子物流
西住 氏（筆者）

会計検査院
土肥 氏

米田 氏

ビジネスシステムイニシアティブ2016 変わりゆく経営とICTを語る！

IoT、FinTech、AIがビジネスを革新する時代、今こそ企業はICTのイニシアティブを取り戻す

主催：ビジネスシステムイニシアティブ協会

日時：2016年11月15日(火) 場所：秋葉原コンベンションホール

コンセプト

ビジネスシステムイニシアティブ協会は、企業システムの構築に際し、ユーザー自身が主体性を取り戻そうという活動を行っており、ユーザー主体で開発していたかつての姿に立ち帰ろうと訴えています。ユーザー自身が、自社の事業の仕組みを理解し、ビジネスを成功に導くために、主体的にICTを活用する姿でもあります。ここ数年、企業のICTの利活用が「経営を支える」という守りやバックヤードのことから、「利益を生み出す」ことにシフトしています。

もとよりICTの活用は目的ではなく、事業革新をいかに行うか、その実行においてICTがどのように使えるか、という経営目線でICTを捉え、企業活動の仕組みをデザインすることが、より重要になってきています。本シンポジウムでは、事業革新のソリューションとしてのICT活用をされている企業の方にご講演いただき、ICTが変わりゆく経営からの期待にどう応えていけるのかを参加者全員で語り・考えたいと思います。

講演内容



基調講演 『はじまった不可避の未来！ ～変貌する社会を企業はどう生き抜くか？～』

ナカシマプロペラ株式会社 イノベーション室 室長

久保 博尚 氏



ソリューション講演 『性能悪化の未然防止「予兆管理」とは』

株式会社アイ・アイ・エム 営業本部 第四営業課 課長代理

宮倉 佐江 氏



事例講演 『エンタープライズにおけるアーキテクチャ設計の趨勢と社内標準化』

三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社 ITプロデュース部 部長

斉藤 賢哉 氏



ソリューション講演 『リバウンドを起こさない日本型内製化に必要なもの』

ピース・ミールテクノロジー株式会社 代表取締役

林 浩一 氏



事例講演 『ICTと人のチカラの融合 ～ANAの顧客エンゲージメントの取り組み～』

全日本空輸株式会社 業務プロセス改革室 イノベーション推進部 部長／デジタル・デザイン・ラボ担当部長

荒牧 秀知 氏

法人正会員

IIMヒューマン・ソリューション株式会社
株式会社アイ・アイ・エム
株式会社ウイング
ウイングアーク1st株式会社
株式会社オラン
株式会社オープンストリーム
クオリティソフト株式会社
さくら情報システム株式会社

株式会社システム科学
ジェネクス・ジャパン株式会社
株式会社ジャスミンソフト
情報技術開発株式会社
株式会社ソフトロード
超高速開発コミュニティ
株式会社ディー・ディー・エス
株式会社データ総研

株式会社東條経営科学研究所
株式会社ドリーム・アーツ
日本インサイトテクノロジー株式会社
ピースミール・テクノロジー株式会社
ヒロ・ビジネス株式会社
ブレインズコンサルティング株式会社
三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社
医療法人明和会宮田眼科病院
有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所
(他1社)

個人正会員

伊藤 孝史
内山 東平
岸川 剛
坂本 克也
庄司 敏浩
新家 敦
前川 徹
(50音順・7名)

理事リスト

理 事 長	木内 里美 (株式会社オラン)
副理事長	寺嶋 一郎 (TERRANET)
	當仲 寛哲 (有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所)
理 事	有吉 和幸 (オフィス有吉)
	内山 東平 (情報科学研究所)
	小河原 茂 (鴻池運輸株式会社)
	河崎 幸徳 (株式会社ふくおかフィナンシャルグループ)
	鈴木 康宏 (株式会社公文教育研究会)
	田口 潤 (株式会社インプレス)
	西川 晋二 (株式会社トライアルホーディングス)
	沼 英明 (F&Pコンサルティング)
	林 浩一 (ピースミール・テクノロジー株式会社)
監 事	堀越 雅朗 (株式会社データ総研)
	前川 徹 (国際大学グローバル・コミュニケーション・センター)
監 事	広川 敬祐 (HBSHiroBusinessSolutions広川公認会計士事務所)

準会員人数

910社 1360名
(2018年3月末時点)

入会ご案内

会員種別		年会費
個人正会員	・この法人の目的に賛同する個人。 ・総会での議決権を持ちます。 ・例会の参加が無料です。 ・その他、正会員向けの特別割引やサービスを受けることができます。	2万5千円
法人正会員	・この法人の目的に賛同し賛助する団体。 ・総会での議決権を持ちます。ただし、議決権は法人単位とするため、複数の部門が入会している法人の場合の議決権は1個です。 ・1回の例会に1法人・1口あたり2名が無料で参加できます。 ・当協会のホームページに企業ロゴを掲載します。 ・メルマガでの自社イベント紹介等、法人正会員向けサービスを受けることができます。 ・例会ビデオを無料でご提供します。 ・その他、正会員向けの特別割引やサービスを受けることができます。	10万円/1口*1
準 会 員	・この法人の目的に賛同し、セミナーなどの事業に参加する個人。 ・総会での議決権はありません。 ・当協会からのご連絡などのために、会員登録（メルマガ登録）をしていただきます。 ・例会にご参加された方は準会員として会員登録をします。	無料*2

*1 1口から何口でもお申込可能です

*2 準会員は年会費は無料ですが、有料の事業に参加される場合は、参加の都度料金をお支払いいただきます。



お申込み・お問い合わせ

ビジネスシステムイニシアティブ協会事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋2-18-2 NKKビル6F（有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所内）

TEL：03-3432-1174 Eメール：info@bsia.or.jp

www.bsia.or.jp